

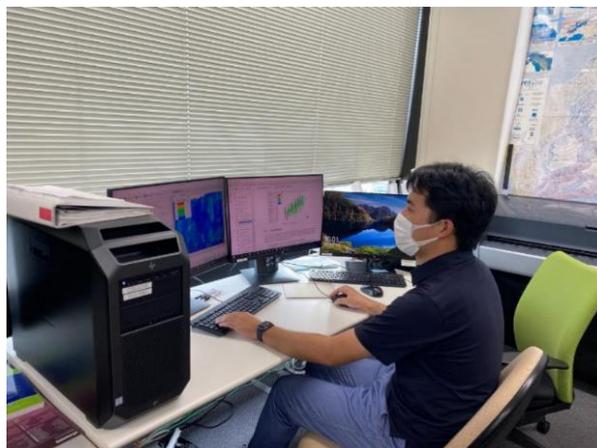
卒業生からのメッセージ

伊藤忠石油開発株式会社

いまいずみ てつや
今泉 徹也

資源開発環境コース 2018 年卒業

資源開発環境学専攻 博士前期課程 2020 年修了



仕事の内容

伊藤忠石油開発は伊藤忠商事エネルギー部門と一体となって探鉱・開発・生産案件の発掘/選定/評価などの技術査定、参画案件の状況モニタリング等を行う会社であり、昨今急速に進む脱炭素化の流れを受けて二酸化炭素地下貯留（CCS）等の脱炭素プロジェクトにも取り組んでいます。現在の私の業務は東シベリアで操業中の INK 案件、アゼルバイジャン国営石油と共同で行っている IOR/EOR スタディ、そして先日加入した二酸化炭素地中貯留技術組合に関する業務を主に行っています。INK 案件では日々の掘削状況や生産量のモニタリング、IOR/EOR スタディでは地質モデルを基に実験データや生産量を踏まえてヒストリーマッチングを行い油層モデルの構築を行っています。CCS 関連ではセミナーや講座等に参加する機会も多いです。

秋田大学で学んでよかったこと

大学で学んだ分野をそのまま生かせる職種ということもあり、大学で学んだことの多くが実際の業務を行う上での基礎となっていると思います。研究室で専攻した分野である石油工学分野だけでなく、石油地質学などの地質分野や物理探査、鉱業法や資源開発プロジェクトに関する経済性計算などの幅広い分野について学ぶことができる点が秋田大のメリットだと思います。また海外フィールドワークや研究で海外の現場を訪れる機会もあり、業界の先輩と会う機会も多く、卒業後のイメージを持って就職活動を行うことができました。そのためか就職後もギャップをあまり感じずに業務にあたる事ができています。

仕事の中で印象に残っているエピソード

2021 年に入ってから、CCS 関連の業務が増えています。2050 年までにカーボンニュートラルを実現するという流れで、石油開発業界が消えてなくなるようなイメージを持つ人や先行きに不安を感じる人もいます。しかし、CCS 関連の業務に従事し、地下構造の把握や坑井の掘削、圧入した CO₂ の挙動予測などはいずれも石油開発業界が培ってきた技術が必要であると実感しています。また IEA は 2050 年には約 25 億トン/年規模の CCS が全世界で行われると推定しており、これは日本の現時点の CO₂ 排出量の 2 倍以上であり、日本国内でも CCS を実現すべく検討が進んでおり、地下流体の専門家としての役割は今後も変わらず残り続けると感じています。

オフタイムにしていること

入社後はコロナ禍の影響で、今までの様に過ごすことはできていませんが、登山やゴルフなど密にならないレジャーを楽しんでいます。コロナ禍終息後は趣味の旅行などに行きたいと考えています。また INPEX 主催の業界研修で出会った仲間たちとはオンライン懇親会などを行い、同業他社の同期たちとの交流も深めています。